

平成25年度 二松学舎大学 日本漢文教育研究推進室 公開講座

平成25年度日本漢文教育研究推進室が開催する特別講義等は、日本漢文学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者及び書誌調査の専門技能者を育成する講座です。受講対象者は、学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他に一般社会人等にも、講義あるいは講習等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけていただくことを目的としています。

◆受講料： **無料** ◆対象者： 学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場： 本学九段校舎

◆応募締切等： **各講座の開始1週間前** [A: 特別講座(1)は、受講申込により、定員になり次第締切ます。]
[B: **集中・演習講座(2～6)**は、受講許可の選考を行います。]

◆申込・問い合わせ先： 二松学舎大学日本漢文教育研究推進室 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16 (九段校舎)
TEL: 03-3261-3535 Fax: 03-3261-3536 e-mail: kanbun-1@nishogakusha-u.ac.jp URL: http://www.nishogakusha-kanbun.net

講座名		内容	講師	所属	期間・時限等	募集人員
特別講座	1 江戸期の『論語』 —亀井南冥『論語語由』読解演習—	江戸期には多くの『論語』解釈書が世に問われたが、なかでも亀井南冥の『論語語由』は、その独自性において異彩を放つ。本講座では『論語語由』の詳細な解説を通して、江戸期の『論語』理解の一端に触れると同時に、漢文文献の正確な読解力を身に付けることを目指す。[演習形式、担当分担]	牧角 悦子	本学教授	木曜日 5時限 *注3	締切 ました
集中講座	2 (未定)					
演習講座 * (本学授業科目)	3 漢籍書誌学	漢籍の目録作成と解題執筆を通じて、漢籍書誌学の基本を学習する。実物を手に取り、版面の比較、調査カードの記入など、実践的な演習を行う。	高山 節也	本学教授	水曜日 2時限	締切 ました
	4 古文書解読講座	江戸～明治期の儒者・医者など、漢字漢文に素養のある人々の、書簡・日記・書幅などの肉筆資料を中心に読解していく。一般に漢籍と違って、国書では書写資料の占める割合が非常に高く、ことに江戸～明治期の漢詩漢文は、同好者間に小部数流通した場合が多く、この分野を扱う以上、書写資料の読解は避けて通れない。多くの資料に触れて、当時の書体・用字・用語に習熟して欲しい。	町 泉寿郎	本学准教授	火曜日 2時限	締切 ました
	5 『中世随筆』の研究	基本的には鴨長明の仏教説話集、『発心集』の研究をしていく。中世の文人隠者としては、西行・長明・兼好が特筆されるが、中でも歌集・歌論書・随筆・説話集と、多岐にわたる作品を遺しているのが長明である。そこで、その中世隠者の営みを、今年は特に『発心集』巻一から見ていこうとするものである。	磯 水絵	本学教授	水曜日 6時限	締切 ました
	6 『近世随筆』の研究	江戸期には、中国明清文人の影響もあって、随筆が数多く書かれた。内容も異事奇聞の聞書、紀行、人物批評、考証、芸術論といった広い分野にわたる。本講座では、近世随筆の代表作からいくつかの記事を選んで読んでいく。作品については、上田秋成『胆大小心録』、大田南畝『一話一言』、『仮名世説』、曲亭馬琴『猿園小説』などを予定している。	稲田 篤信	本学特別招聘教授	火曜日 3時限	締切 ました

注) 1. 開講時間 = 2時限: 10:50～12:20 3時限: 13:00～14:30 4時限: 14:50～16:20 5時限: 16:40～18:10 6時限: 18:20～19:50

2. 前期・後期 = 前期: 4/8～7/29の15回 後期: 9/19～12/20・1/8～1/27の15回

3. No.1「江戸期の『論語』」の開講予定日 = 前期: (4回) 5/23 6/6 6/27 7/18

後期: (6回) 9/12 9/26 10/31 11/7 11/28 12/19

なお、本講座は「演習形式」のため、各受講者に担当部分を割り振り、発表をしていただきます。

4. 開講日等 = 開講予定日・教室は、講師及び学内行事で変更することがあります。

また、夏期休業は 8/6～9/18、冬期休業は 12/25～1/7 です。

5. 未定の集中講座は、確定次第ホームページ上に掲載し、別途募集いたします。